

<発表者> 指導区名：大隅指導区 氏名：伊佐敷和孝

1 発表テーマ

大隅地域における林業成長産業化（再造林）の推進について

2 テーマの趣旨・目的 <取組課題選定の背景含む>

大隅地域は、鹿児島県大隅半島に位置し、4市5町がその区域となっている。森林面積13万2千haのうち私有林面積は約84千ha、うちスギ・ヒノキの人工林面積は約60%の51千haで、県全体の私有林面積の約25%を占めており、利用可能な7齢級以上の人工林面積は約90%で10齢級をピークに森林資源も充実している。

また、川下では新たな木材需要に対応したCLT工場や2×4部材等を供給する大型木材加工施設の稼働、更に日本一の木材輸出港となった志布志港からは東アジアを中心に県産材が輸出されるなど、旺盛な木材需要に伴い主伐が行われており、各地で林業生産活動が活発化しているところである。

このようなことから、平成29年4月に「林業成長産業化地域」に指定され、同年から林業成長産業化地域創出モデル事業等に取り組んでおり、長期的かつ安定的な木材供給体制の構築と資源の循環利用の推進を図っているため、その内容について報告する。

3 現状及びこれまでの取組みの成果・課題

① 成果（目標数値等を定めた場合は、その成果を含む）

林業成長産業化地域として達成を目指す目標と達成状況

指 標	R2 (見込み)	R3 (目標値)	R2/R3 (達成率)
雇用者数(人)	545	620	88%
素材生産量(千m3)	223	252	88%
再造林率(%)	54	80	68%
素材生産コスト(円/m3)	5,400	5,000	93%

○主な成果

- ・ 路網整備，中間土場整備，高性能林業機械等の整備
- ・ CLTを活用した木造公共施設の整備
- ・ 森林・林業の情報発信（HP，SNS利用）
- ・ 再造林の推進（伐採届制度の厳格化，コンテナ苗の安定供給体制整備）
- ・ 林業就業者の増加（H27現状値比115%増【R元実績】）
- ・ 肝付町北方地域森林整備協定（民国連携）（H30.10）
- ・ 中間土場設置指針の策定（H31.3）
- ・ 外山木材（株）志布志工場への原木供給協定締結（H31.4）
- ・ 南大隅町中間土場活用協議会設立（R1.11）
- ・ 林業事業体ののぼり旗取扱要領，大隅森林保全パトロール要領策定（R2.9）

② 課題

再造林面積は平成27年度に比べ1.5倍に増加しているが、旺盛な木材需要に伴い主伐が急増しており、造林作業にかかる労働力等が不足していることから、再造林が低位な状況である。

4 今後取組むべき内容

① 具体的手法

- (1) 森林所有者への推進
 - ・大隅森林保全パトロールを通して、誤伐防止と再造林を推進する。
 - ・責任ある林業事業体のPR及び森林所有者に対する森林整備の意識の醸成を図るため「大隅はひとつ、大隅の未来へ」をコンセプトに大隅独自の再造林推進のぼり旗の掲揚を推進する。
 - ・責任ある素材生産事業体認証制度（CRL）の普及による再造林を推進する。
- (2) 苗木生産者の育成を継続し、コンテナ苗等山行苗の安定的な確保
 - ・通年植栽や植栽手間の軽減に資するコンテナ苗の生産拡大を図るため、平成30年度からコンテナ苗生産技術研修会を実施する。
 - ・令和元年度からコンテナ苗生産施設を新たに整備した生産者6者を含め、将来的は40万本の生産・供給体制を構築する。
 - ・2年又は3年先を見据えた苗木の生産管理を図るため、需給調整機能の構築を図る。
- (3) 林業担い手の確保・育成
 - 確保対策
 - (7) 林業の新規就業者確保対策として、林科系の県立鹿屋農業高等学校と林業事業体との交流を実施する。
その他の高校に対しても森林・林業分野を広く認知してもらう。
 - ・県立鹿屋工業高等学校建築科の生徒に対し、建築士会と連携して、木造建築物の伐採から建築までの行程を研修する。
 - ・おおすみ木材まつりでは私立鹿屋中央高校の協力を得てイベントを開催し、イベントを通して森林・林業の認知度向上を図る。
 - (4) 再造林や下刈り等、労務軽減に繋がる研修を実施する。
 - 育成対策
 - (7) 林業事業体の若手就業者を対象とした交流会を継続し、職員間交流による横の連携を図り、短期離職防止に繋げる。
 - (4) 循環型森林施業を推進する森林経営プランナーを育成する。
 - 造林者の確保・育成を図るため、苗木生産者を対象としたコンテナ苗植栽研修を実施する。

② 期待する成果（目標数値等を定めた場合は、その内容を含む）

林業成長産業化地域として達成を目指す目標と達成状況

指標	H27 (現状値)	H28	H29	H30	R元	R2 (見込)	R3 (目標値)	R2/R3 (達成率)
雇用者数(人)	482	497	499	503	554	545	620	88%
素材生産量(千m ³)	178	171	179	179	248	223	252	88%
再造林率(%)	38	46	61	43	41	54	80	68%
素材生産コスト(円/m ³)	5,700	5,500	5,600	5,700	5,100	5,400	5,000	93%

- ・集約化された森林から効率的な木材生産や流通体制が構築され、地域材の供給量が増大する。
- ・森林経営や素材生産・流通に至る各分野の収益性が改善される。
- ・林業収益が森林所有者や林業関係者に還元される。
- ・林業担い手の確保・育成対策による林業就業者の増加及びコンテナ苗等の安定確保の構築により、再造林率の向上が期待される。